

柴崎蟹沢遺跡

— 建売分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2017

高崎市教育委員会
ケイアイスター不動産株式会社
有限会社毛野考古学研究所

例言

1. 本書は、建売分譲に伴う柴崎蟹沢遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市柴崎町字蟹沢 601-1、601-25、601-26 に所在している。
3. 本調査および整理作業は、事業者・高崎市・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
4. 発掘調査から整理作業を経て本書刊行に至る経費は、ケイアイスター不動産株式会社に負担して頂いた。
5. 発掘調査は、高崎市教育委員会の監督のもと和久拓照（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
6. 発掘調査・整理作業は、平成 29 年 3 月 21 日～平成 29 年 9 月 25 日の期間で実施した。
7. 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で「697」である。
8. 発掘調査終盤の調査区全景・遠景を対象とする空撮は、和久が実施した。
9. 本書の執筆については、I を高崎市教育委員会、その他を和久が行った。
10. 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
11. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下のとおりである（五十音順、敬称略）。

【発掘調査】

佐 俊 進 竹内正行 名嶋松生 矢島義秋

【整理作業】

磯 洋子 榎澤美枝 合田幸子 山木千春

凡例

1. 挿図中の北方位は座標北を、断面水準線数値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いている。
2. 遺構図および遺物実測図の縮尺については、図中にスケールを付して表示した。遺物観察表の計測値で用いた単位は cm、kg である。
3. 土器の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修 2006）を用いた。
4. 土層説明における含有物の量は、多量（50～30%）・中量（25～15%）・少量（10～5%）・微量（1～3%）を基本とし、より高率・多量は「主体」、より低率・少量は「ごく微量」とそれぞれ表記した。
5. 遺物観察表中の法量欄について、推定復元による場合には（ ）、残存値には [] をつけた。
6. 本書掲載の第 1 図は高崎市発行 1/2,500「高崎市都市計画基本図」、第 2 図は国土地理院発行 1/200,000 地勢図「長野」・「宇都宮」、第 4 図は、国土地理院発行 1/25,000 地形図「高崎」を一部改変のうえ引用した。また、本所掲載の地図は、いずれも真上が北である。
7. 遺構略称は、土坑：SD、ピット：SPとした。

目次

例言	2 調査の経過概要	4
凡例	IV 基本層序	4
目次	V 遺構と遺物	5
I 調査に至る経緯	1 概要	5
II 地理的・歴史的環境	2 土坑・ピット	7
1 地理的環境	3 遺構外出土遺物	7
2 歴史的環境	VI まとめ	10
III 調査の方法と経過	写真図版	
1 調査の方法	報告書抄録	

図表目次

第1図 調査区位置図	第4図 基本層序	第7図 出土遺物
第2図 高崎市および遺跡の位置	第5図 窪地土層堆積状況	第8図 検出遺構
第3図 周辺の遺跡	第6図 調査区全体図	第1表 出土遺物観察表
1	4	8
2	5	9
3	6	8

写真図版目次

PL. 1 調査区全景 調査区遠景	PL. 2 SP-2 SP-3 SP-4 窪地トレンチセクション 窪地トレンチセクション拡大	PL. 3 遺構確認面の傾斜状況 調査開始前状況 表土層削り状況 作業状況 出土遺物
PL. 2 SK-1 SK-2 SP-1		

I 調査に至る経緯

平成28年10月、土地所有者および事業者であるケイアイスター不動産株式会社から、高崎市柴崎町において計画している分譲住宅建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である矢中33遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年11月1日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書と文化財保護法に基づく届出が提出され、平成29年1月11日と12日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、古墳時代の遺構・遺物を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「柴崎蟹沢遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成29年3月10日にケイアイスター不動産株式会社と民間調査機関株式会社毛野考古学研究所との間で契約を締結、また同日にケイアイスター不動産株式会社・有限会社毛野考古学研究所・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。



第1図 調査区位置図

■：開発予定地 ■：調査範囲

II 地理的・歴史的環境

1 地理的環境

柴崎蟹沢遺跡は、井野川と烏川の間間域、井野川支流である粕川右岸の台地、低段丘末端の斜面上に位置する。台地上には中小の河川が流れており、微高地と低地が複雑に入り組んだ地形を呈している。井野川は、本遺跡の北北西にある合流地点にて柴谷川と合流し、高崎市域の東南端で烏川に注ぐ。遺跡地付近の現地表

面の標高はおおよそ80～83 m、調査区の現地表面82 m前後、遺構確認面においては80.0～81.0 mを測る。旧地形は西に向けてゆるやか、また北方へ向けて顕著な傾斜をなす。

遺跡地周辺では微高地が現国道354線に沿う形で東西に展開し、北は一貫堀川、南は地獄塚川に向けてそれぞれ傾斜している。各川沿いは水田となっているが、調査区のある台地縁辺では主に宅地・畑地が広がる。

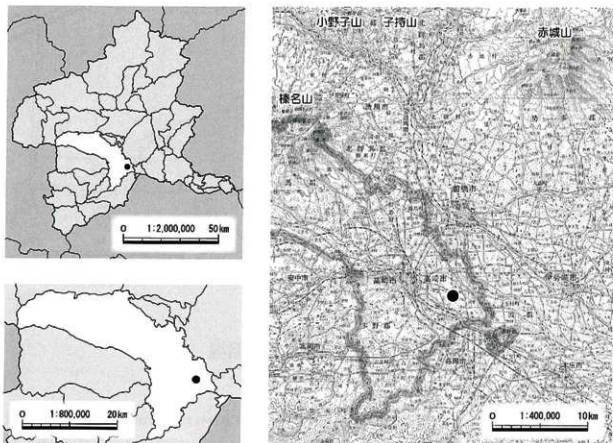
2 歴史的環境

井野川流域はかねてより遺跡の宝庫と呼ばれており、本遺跡周辺も、縄文時代から中世にかけての遺跡を多数擁している。

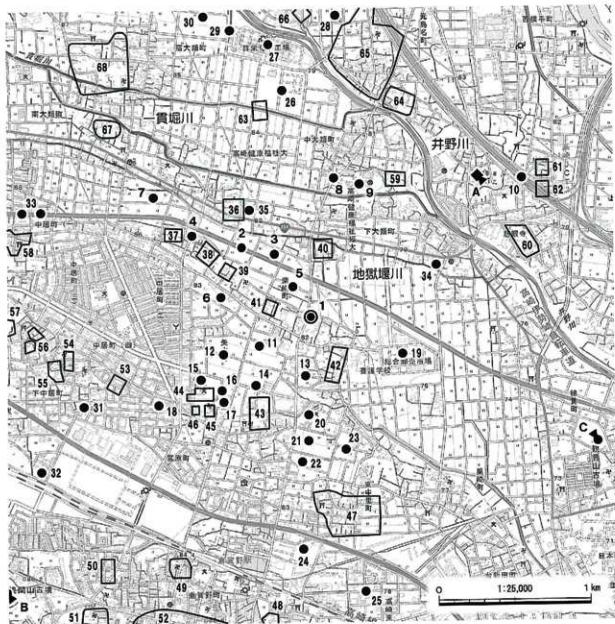
とりわけ古墳時代においては、元島名将軍塚（前方後方墳）(A) など、前期より首長墓級の古墳が築造されはじめ、後期の綿貫観音山(C)に至るまで考古学的にも著名な事例を複数確認することができる。本遺跡の至近と思われる柴崎飯沢古墳も、三角縁神獣鏡の出上りが伝わる前期古墳であるが、ほぼ消滅し、正確な位置が不明となっている。

奈良・平安時代の調査例として、高崎情報同地遺跡(26)において東山道駅跡と目される道路跡が検出されている。弥生時代以来、集落遺跡は井野川兩岸の微高地に散漫に占地する傾向を長らく示していたが、平安時代を画期として住居・建物が激増、濃密な分布域も周囲へ及ぶようになる。前節にて記した一貫堀川と地獄塚川を中心とする低地帯では、As-B軽石に被覆された条里水田が展開する。

中世においては、城館跡を主とする遺跡が多数分布するほか、「古渋川倉賀野道」など古道に関する知見も近年新たな蓄積をみている。



第2図 高崎市および遺跡の位置



- | | | | | |
|-------------------|-----------|------------|------------|------------|
| 1 柴崎蟹沢 | 15 宝昌寺裏 | 30 山島・天神 | 44 宝昌寺裏屋敷 | 59 降原屋敷 |
| 【周辺遺跡】 | 16 矢中村北C | 31 下中唐桑里 | 45 栗原屋敷 | 60 慈眼寺 |
| 2 新堀・豊田・吹手西A・富士塚B | 17 矢中村北B | 32 下之城村東 | 46 宝昌寺屋敷 | 61 江原屋敷 |
| 3 魚原・富士原・富士塚前B | 18 矢中村西I | 33 上中屋一丁目 | 47 東中里城 | 62 上滝中屋敷 |
| 4 西浦・単人・吹手西 | 19 下大塚 | 34 下大塚・中道下 | 48 倉賀野東城 | 63 塚ノ越屋敷 |
| 5 村間・富士塚前A | 20 矢中村東 | 35 柴崎単人 | 49 永泉寺の藝 | 64 元島名内出 |
| 6 天王前 | 21 矢中村東B | 【中世城館跡】 | 50 上稲荷南屋敷 | 65 元島名城 |
| 7 西沖・柳原・吹手西B | 22 村東C | 36 単人屋敷 | 51 倉賀野西城 | 66 鈴ノ宮屋敷 |
| 8 中大塚金井 | 23(同上) | 37 柴崎西浦屋敷 | 52 倉賀野城 | 67 大塚館 |
| 9 中大塚金井分 | 24 中里前 | 38 高井屋敷 | 53 道場屋敷 | 68 大塚城 |
| 10 上滝 | 25 東条里 | 39 柴崎桜井屋敷 | 54 下中屋住遊屋敷 | 【古墳】 |
| 11 柴崎前 | 26 高崎情報団地 | 40 大塚客舎 | 55 下中屋福田屋敷 | A 元島名尊塚環古墳 |
| 12 村北A・天王前 | 27 万相寺 | 41 村間屋敷 | 56 高尾屋敷 | B 浅間山古墳 |
| 13 砂内 | 28 元島名 | 42 天下屋敷 | 57 下中屋新井屋敷 | C 綿貫観音山古墳 |
| 14 下村北 | 29 天神久保 | 43 下村北屋敷 | 58 字名堂露澤遺構 | |

第3図 周辺の遺跡

Ⅲ 調査の方法と経過

1 調査の方法

表土除去は、0.25 m²バックホーを用いて行った。表土除去後、人力による遺構検出および遺構掘削を行った。遺構掘削は、適宜ベルト設定および半截を行い、土層堆積状況を記録した。

遺構測量については、トータルステーションおよび電子平板を用いて平面図を作成し、断面図は遺り方測量で行った。各測量データはDXF形式に書き出すことによって汎用性をもたせた。なお、座標は世界測地系を使用している。遺構写真は、調査の進捗状況に応じて行い、35mmモノクロ・35mmカラーリバーサル・デジタルカメラ（1,600万画素相当）を使用した。

遺物接合は、溶剤系接着剤（セメダインC）を用い、エポキシ系樹脂で部分的に補強した。遺物の写真撮影は、センサーサイズAPS-Cのもの（Nikon D7000）を使用した。遺構・遺物トレース、写真加工、版組はそれぞれAdobe IllustratorCS2、Adobe PhotoshopCS6、Adobe InDesignCS2を使用した。

2 調査の経過概要

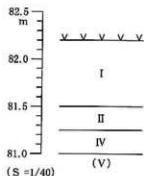
現地での発掘調査は平成29（2017）年3月21日～平成29年3月30日まで行った。

- 3月21日 重機の搬入。仮設トイレの搬入・設置、器材の搬入。GPS測位を利用した測量基準杭の打設。
- 3月22日 重機による表土掘削を開始。
- 3月23日 重機による表土掘削を継続。場内整備。
- 3月24日 重機による表土掘削を終了。人力による遺構確認作業。
- 3月28日 窪地と呼称した自然地形の箇所にサブトレンチを設定して掘削。土坑・ピットの覆土掘削。重機では困難であった調査区北端の傾斜部分の人力掘削。
- 3月29日 すべての土坑・ピットを完掘、同状況の撮影。調査区遠景の空撮。
- 3月30日 作業最終日。平面測量。調査区全景の空撮。高崎市教委職員による調査終了の確認。器材などの撤収。

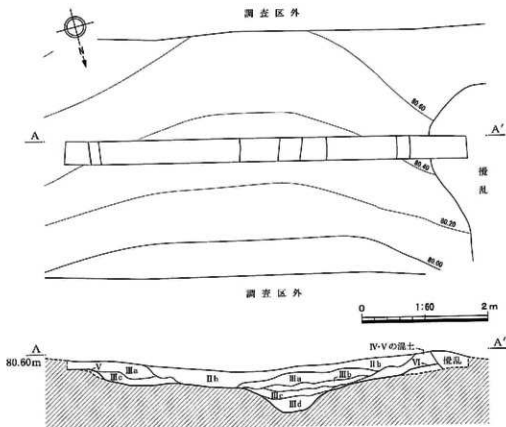
Ⅳ 基本層序

調査区全体にわたり、確認面の直上25 cm以内まで工事掘削・盛土による攪乱が及んでおり、自然土壌の堆積状況を順当に記録できる箇所は皆無であった。一方今回の調査では、遺構に該当せず、人為的作用が認められない微地形のうち、谷状の窪地にトレンチを設定して精査、本来の基本層序を示唆する堆積土を記録した。

窪地のAs-B堆積層は、下位に粘度の高いアッシュが少ない反面、目視できる混入物がほとんどないことから、一次堆積層ないしそれに準じるものと推察される。なお、調査範囲の大半は土壌が低い方へ流されやすい斜面であり、窪地に比べて本来の堆積状況自体が良好でなかった可能性も多分に考えられる。



第4図 基本層序



基本層序・遺地堆積土 共通土層説明

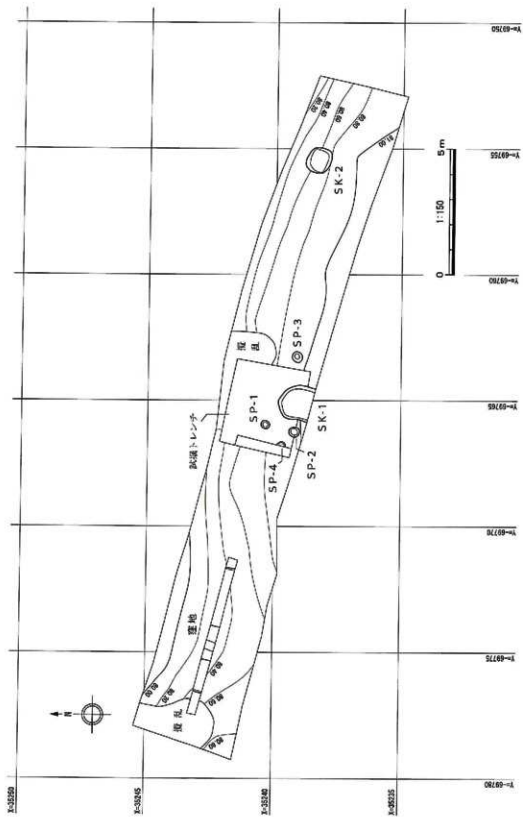
- | | | | |
|-------------------------|------------------------------------|-----------------------|--|
| I 褐灰色土
(10YR5/1) | 粘性、しまりともあり。盛土層。砕石主体、植物やゴミ少量。 | III 褐灰色土
(10YR4/1) | しまりややあり、粘性あり。泥炭質。橙色の粒子(2~8mm)少量、As-Bの細粒微量。 |
| IIa 黄褐色土
(10YR5/6) | しまり、粘性ともややあり。ソフトローム主体、As-Aの粒子中量。 | IV 黄褐色土
(10YR5/6) | しまり、粘性ともややあり。ローム層跡。 |
| IIb 灰黄褐色土
(10YR5/2) | しまり、粘性ともややあり。II a・III a 両層の混土。 | V 黄褐色土
(10YR5/8) | しまり、粘性ともややあり。ローム層。赤褐色(10~200mm)と青灰色(10~50mm)の混少量。 |
| IIIa 暗褐色土
(10YR3/4) | しまり、粘性ともややあり。II b層が少量混入。As-Bの細粒中量。 | VI 浅黄色土
(2.5Y7/3) | しまり強、粘性あり。橙色(5~20mm)、赤褐色(10~30mm)、および青灰色(5~20mm)の粒子を含む。しまり強、粘性やや強。 |
| IIIb 黄褐色土
(10YR5/8) | しまり、粘性ともややあり。ロームが中量混入。As-Bの細粒多量。 | | |
| IIIc 褐灰色土
(7.5YR5/2) | しまり、粘性ともなし。As-B細粒の堆積土。 | | |

第5図 遺地土層堆積状況

V 遺構と遺物

1 概要

今回の調査で、土坑2基、ピット4基が検出され、古墳時代前期～中期の土師器の破片、縄文土器、打製石斧、および平安時代の須恵器の破片が出土した。近代以前の擾乱にAs-A(1783年降下の怪石)・As-B(1108年)の細粒があまねく混入するのに対し、土坑・ピットの覆土に同様の粒子はほとんど混じらないか、上位や局所に微量が混在するのみである。このため土坑・ピットは、平安時代末より古く、古墳時代前期と大きな隔たりのない時期に埋没したものである可能性が考えられる。



第6図 調査区全体図

2 土坑・ピット

SK-1

位置の中心：X = 35239、Y = -69765 グリッド。重複：なし。平面形態：楕円形。断面形状：おおむね逆台形。規模：短径 1.39 m。残存深度：0.32 m。遺構埋没状態：黄褐色に近似する土を主体とする自然埋没とみられる。遺物：なし。時期：古墳時代前期～中期に属する可能性が考えられる。

SK-2

位置の中心：X = 35238、Y = -69756 グリッド。重複：なし。平面形態：円形。断面形状：おおむね逆台形。規模：長径 1.10 m、短径 0.94 m。残存深度：0.47 m。遺構埋没状態：褐灰色ないし灰黄褐色土による自然埋没とみられる。遺物：なし。時期：古墳時代前期～中期に属する可能性が考えられる。

SP-1

位置の中心：X = 35240、Y = -69766 グリッド。重複：なし。平面形態：円形。断面形状：弧状。規模：長径 0.34 m、短径 0.31 m。残存深度：0.12 m。遺構埋没状態：不明。遺物：なし。時期：古墳時代前期～中期に属する可能性が考えられる。備考：試掘調査時に検出・調査された遺構である。

SP-2

位置の中心：X = 35239、Y = -69766 グリッド。重複：なし。平面形態：円形。断面形状：箱形を呈する。規模：長径 0.42 m、短径 0.39 m。残存深度：0.08 m。遺構埋没状態：灰黄褐色土による自然埋没とみられる。遺物：なし。時期：古墳時代前期～中期に属する可能性が考えられる。

SP-3

位置の中心：X = 35239、Y = -69763 グリッド。重複：なし。平面形態：円形。断面形状：弧状。規模：長径 0.44 m、短径 0.39 m。残存深度：0.12 m。遺構埋没状態：灰黄褐色土による自然埋没とみられる。遺物：なし。時期：古墳時代前期～中期に属する可能性が考えられる。

SP-4

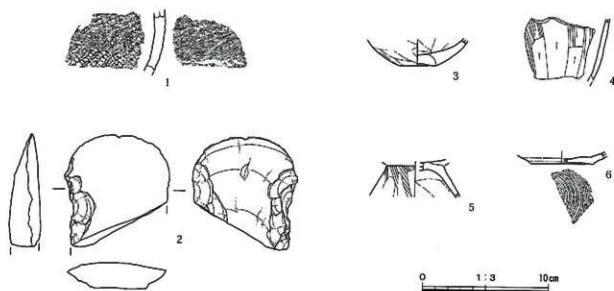
位置の中心：X = 35240、Y = -69767 グリッド。重複：なし。平面形態：円形と推測される。断面形状：逆台形を呈する。規模：残存径 0.34 m を測る。残存深度：0.11 m。遺構埋没状態：灰黄褐色土による自然埋没とみられる。遺物：なし。時期：古墳時代前期～中期に属する可能性が考えられる。

3 遺構外出土遺物

古墳時代前期～中期の上師器の破片 20 点弱、縄文土器、打製石斧、および平安時代の須恵器の破片が各 1 点採集された。検出遺構である土坑・ピットの覆土から見つかったものではなく、いずれも遺構確認面に相当する基本層序のIV層上位にて出土している。

第7図3は土師器埴。4・5は堯で、ともに石田川式土器、S字甕の一部とみられる。図化対象とならなかった土器細片のほとんども、これらと同様古墳時代前期～中期の所産と考えられる。

第7図6は、奈良～平安時代の須恵器埴。1は縄文時代前期初頭～前葉の資料、羽状縄文系土器・織維土器などの具称をもつ土器の一種。2は縄文時代の石器、頁岩製の打製石斧である。



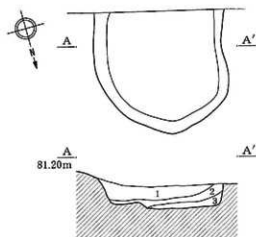
第7図 出土遺物

番号	器種	法量 (cm)	①地成(石材)②色粒③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考	
1	縄文土器 深鉢	口径 — 底径 — 器高 —	①砂土 ②にぶい黄緑/にぶい橙 ③炭灰少量、赤色粒、白色粒、砂粒 ④ほぼ完成形	外面：単線縄文L.R. 内面：粗いナデ。	縄文時代前期初頭～前葉。	
番号	器種	法量 (cm)	特 徴			
2	打製石斧	長さ (S.85) 幅 (S.85) 厚さ 1.78 重さ 51.97	頁岩製、中央～刀部欠損、割削を素材とし、割削部に両面加工を施す。			縄文時代。
番号	器種	法量 (cm)	①地成(石材)②色粒③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考	
3	土師器 埴	口径 — 底径 (2.9) 器高 —	①良好 ②にぶい黄/にぶい橙 ③石炭、チャート、黒色粒 ④胴部ト陰～底部片	外面：胴部ケズリ後ナデ。底部ナデ。 内面：胴部ナデ。底部ナデ。	古墳時代前期。	
4	土師器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	①良好 ②にぶい黄橙/にぶい橙 ③片岩、石灰、黒色粒 ④胴部片	外面：ケズリ。 内面：ナデ。	古墳時代前期。	
5	土師器 台付甕	口径 — 底径 — 器高 —	①良好 ②にぶい黄橙/橙 ③片岩、石灰、黒色粒、褐色粒 ④胴部片	外面：ナメハケ後ナデ。 内面：ナデ。	古墳時代前期。	
6	須恵器 埴	口径 — 底径 (6.0) 器高 —	①酸化塩気味 ②灰黄黒/暗灰黄 ③白色粒 ④体部下位～底部片	外面：轆轤型形。底部右側縁角切り未調整。 内面：轆轤型形。	奈良～平安時代。	

第1表 出土遺物観察表

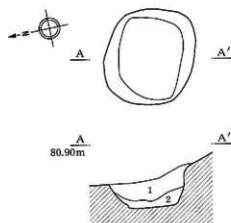
SK-1

調査区外



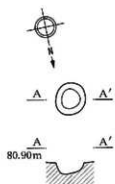
- 1 暗灰褐色土 (2.5Y5/2) しまり、粘性ともややあり、ローム粒 (2~8mm) 少量、ロームブロック (10~20mm) 微量。
 2 黄褐色土 しまり、粘性ともややあり、ロームブロック (10~40mm) 中量、ローム粒 (2~8mm) 少量。
 3 灰黄褐色土 しまり、粘性ともややあり、ロームブロック (10~40mm) とローム粒 (2~8mm) 少量。

SK-2

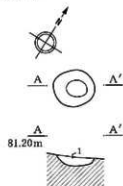


- 1 暗灰褐色土 (2.5Y5/2) しまり、粘性ともややあり、ローム粒 (2~8mm) 少量、ロームブロック (10~20mm) 微量。
 2 灰黄褐色土 しまり、粘性ともややあり、ロームブロック (10~40mm) 中量、ローム粒 (2~8mm) 少量。

SP-1

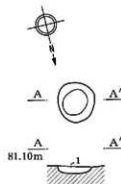


SP-3



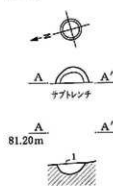
- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまり、粘性ともややあり、ローム粒 (2~8mm) とロームブロック (10~50mm) 少量。

SP-2

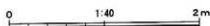


- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまり、粘性ともややあり、ローム粒 (2~8mm) 中量、ロームブロック (10~50mm) 少量。

SP-4



- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり、粘性ともややあり、ローム粒 (2~8mm) 中量、ロームブロック (10~30mm) 少量。



第8図 検出遺構

VI まとめ

今回の調査では、斜面地という立地条件ながら、古墳時代前期～中期の土師器破片が出土したほか、同様の時期に属する可能性がある土坑・ピットの検出をみた。

本遺跡が立地する台地（低段丘）上では、柴崎浅間山古墳（現存）、三角縁神獣鏡の採集が伝わる柴崎蟹沢古墳（消滅、位置不明）、さらに方形・円形周溝墓群の矢中村東遺跡が知られており、墓域として広く利用された往時の消息を示している。一方、水田地帯である低地をはさんだ北の向かい側、進雄神社付近の台地から東へ舌状に延びる微高地上には下大類遺跡や柴崎熊野前遺跡などがあり、玉造工房跡を伴う古墳時代前期集落の存在が想定されている。今回の調査成果は、墓域縁辺にして、沖積地を隔てた北の集落を望む遺物散布地といった、本遺跡の属性・ロケーションを傍証するものと評価しうる。

本遺跡と同じ字名を冠する柴崎蟹沢古墳に象徴されるとおり、当該地周辺は、時世の推移のなかで見えにくくなりがちな遺跡地の個性をたずね直し、周知を図る取り組みに関し、少なからぬ要諦が潜在する地域といえる。ささやかではあるが、本報告がその布石のひとつとなることを願いつつ、結語に代えたい。

参考文献

- 群馬県史編さん委員会 1990 『群馬県史 通史編 原始古代Ⅰ』 群馬県
高崎市市史編さん委員会 1994 『新編 高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』 高崎市
志田登ほか 1996 『下中居条里遺跡』 高崎市教育委員会
吉田昌利 1998 『下中居条里遺跡Ⅱ』 高崎市教育委員会
高崎市市史編さん委員会 1999 『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』 高崎市
高崎市市史編さん委員会 2003 『新編 高崎市史 通史編1 原始古代』 高崎市
石丸敦史ほか 2012 『柴崎・集人造跡3』 有限会社毛野考古学研究所
有山径世ほか 2015 『倉賀野長賀寺山古墳』 有限会社毛野考古学研究所

写真図版



調査区周辺の新旧航空写真

(左：1947年9月米軍撮影 右：2010年5月国土地理院撮影 ともにS₀ 1/20,000)



調査区全景（北が上）



調査区遠景（東から）



SK-1 (北から)



SK-2 (北西から)



SP-1 (北から)



SP-2 (北から)



SP-3 (南東から)



SP-4 (西から)



窪地トレンチセクション (北東から)



窪地トレンチセクション拡大 (北から)



遺構確認面の傾斜状況（東から）



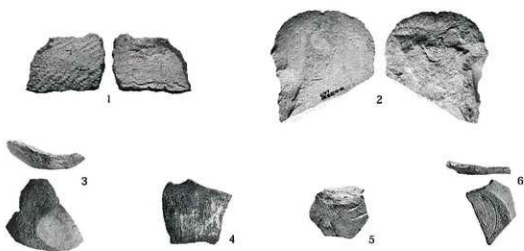
調査開始前状況（東から）



表土掘削状況（西から）



作業状況（南西から）



出土遺物

報告書抄録

フリガナ	シバサキカニサワイセキ
書名	柴崎蟹沢遺跡
副書名	建売分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第397集
編著者名	和久拓照
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 TEL.027-265-1804
発行機関	有限会社 毛野考古学研究所
発行年月日	平成29年9月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
柴崎蟹沢遺跡	群馬県高崎市 柴崎町字蟹沢 601-1, 601-25, 601-26	102020	697	36°18'54"	139°03'23"	2017 03 21 ～ 2017 03 30	約 200㎡	建売分譲

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
柴崎蟹沢遺跡	散布地	縄文時代 古墳時代 平安時代	土 坑 ピット 自然流路	3基 4基 1条	縄文土器 打製石斧 土師器 須恵器	古墳時代前期～中期に属するとみられる土坑・ピットが検出された。窪地と称した自然流路は、平安時代木以前に形成された旧地形の一部と考えられる。

高崎市文化財調査報告書第397集

柴崎蟹沢遺跡

— 建売分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

平成29年9月15日印刷

平成29年9月25日発行

編集 / 有限会社 毛野考古学研究所
発行 / 有限会社 毛野考古学研究所
印刷 / 朝日印刷工業株式会社